

コアファシリティにおける CFA の研究支援マネジメントと成果

発表者氏名：西村真弓 技術分野 ：企画 発表形式 ：口頭発表

所 属 ：分析・物質技術支援室 表面分析・形態観察技術グループ

共同発表者氏名：

沢田義治（分析・物質技術支援室 組成分析・構造解析技術グループ）

吉村文孝（生物・生体技術支援室 実験動物技術グループ）

後藤伸太郎（装置開発技術支援室 精密加工技術グループ）

小川直也（分析・物質技術支援室 組成分析・構造解析技術グループ）

松浦彩夏（東海国立大学機構統括技術センター）

高濱謙太郎（企画室、設備・機器共用推進室、分析・物質技術支援室 組成分析・構造解析技術グループ）

概要

東海国立大学機構は、2021 年度に令和 3 年度 文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）」（事業期間 2021 年～2025 年度）に採択され、学内の研究用設備・機器の共用推進や充実化等に努めてきた。本事業において、東海国立大学機構は、研究支援マネジメント・コーディネートを担当する専門人材、コアファシリティアドミニストレータ（CFA）を常勤技術職員から選任し、学内外を含めた共用設備・機器の利用から、技術的な研究支援、設備・機器の充実化のための外部資金獲得、広報活動など、広範な研究支援マネジメントやコーディネートを実施してきた。

CFA の活動は、単なる機器管理に留まらず、「ユーザー支援」「設備・機器の利用推進」「研究基盤戦略の企画立案」「外部資金獲得への貢献」の 4 項目を柱としている。特に、現場の技術的知見を経営層や研究者に繋ぐ「ハブ機能」を重視した結果、具体的な定量的成果として、以下の実績が得られた。第一に、CFA による能動的なコンサルティング等により、学内外からの技術相談件数は事業期間中に 2019 年度比の約 10 倍へと劇的に増加した。これは、研究者のニーズを的確に捉え、最適な技術解決策を提示して支援する体制が強化されたことを示している。第二に、積極的な広報や外部を含めた利用の促進により、機器利用料収入は事業開始前と比較して約 60%の増加を達成した。具体的には、Web サイトの刷新や SNS を通じた情報発信、さらには展示会への出展といった多角的な広報活動が、民間企業や他学部等の新規ユーザー獲得に大きく寄与した。第三に、CFA が全学共用設備・機器の拡充等に関する調査や企画立案を支援したことで、最新機器の導入に成功した。これにより、機構全体の研究インフラの高度化を実現した。

以上の通り、高度な技術力を有する技術職員が研究基盤マネジメントやコーディネートを主体的に担うことで、研究現場の潜在的なニーズを組織の戦略的な強化へと繋げられることが示された。今後は、技術職員の新たな活躍形態の一つとして CFA の育成をさらに努めると共に、更なる研究支援を展開していく。